

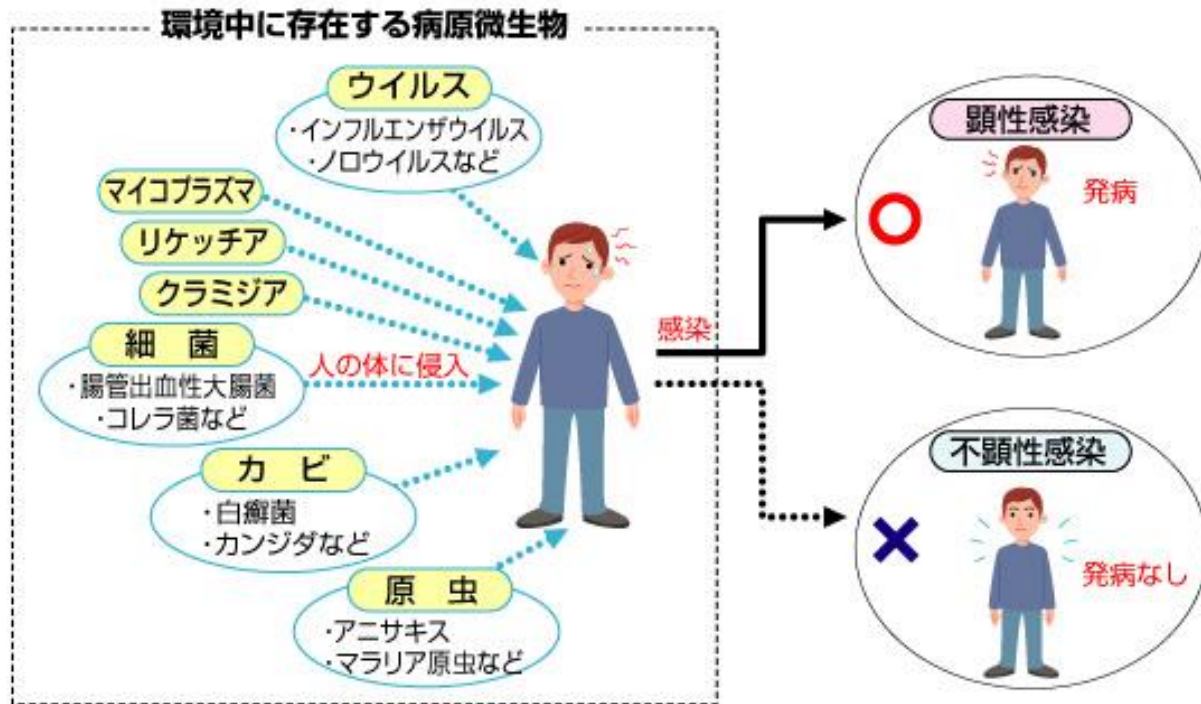
# 感染症に関する勉強会

2018年10月20日  
大野内科医院

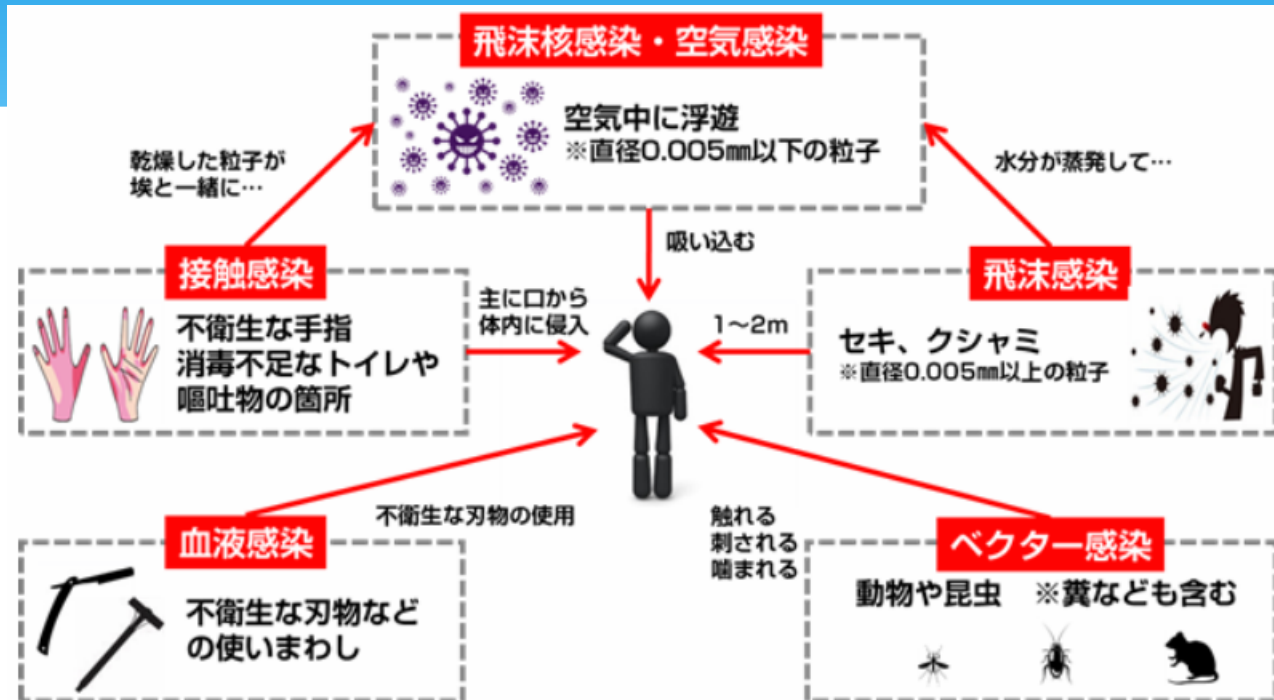
# 感染症とは

「うつる病気」の総称です。原因は微生物で、ウイルスや細菌のほか、真菌(しんきん:カビ類)、寄生虫などたくさんあります。

体内に入り込んだ病原体が体内で増えたとき「感染」、そして何らかの不快な症状が出てきたときに「病気＝感染症になった」といいます。



# 主な感染経路(ルート)



## 当院での具体例

**空気・接触感染:** オムツ交換やトイレ介助の時の排泄物の処理、吐物の処理

**飛沫感染:** 感染者のくしゃみや咳等の飛沫

**血液感染:** 穿刺時、穿刺針の片付け、膿盆内の片付け、止血時、ゴミ箱の処理

# 院内感染とは

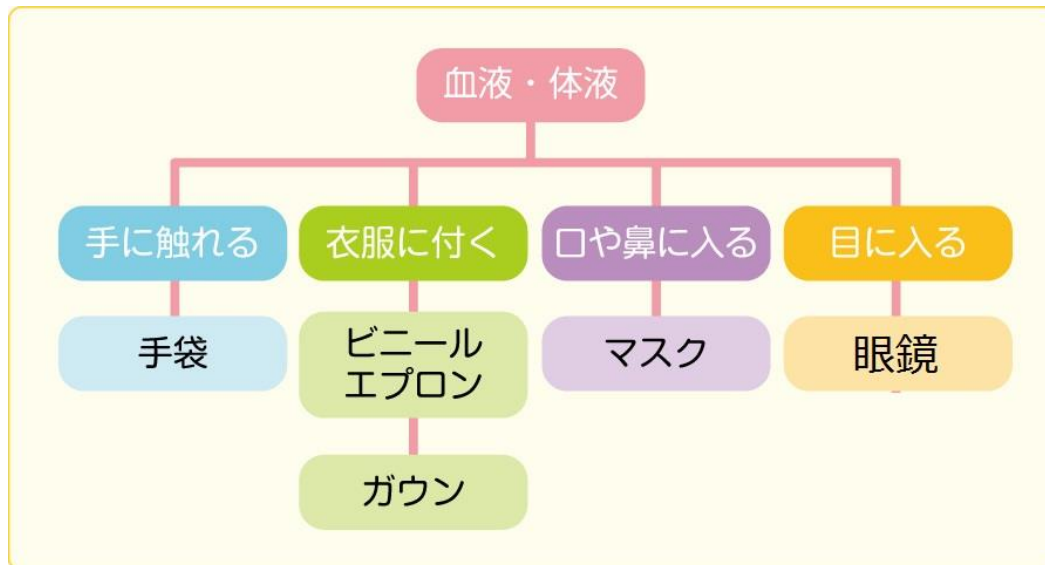
- \* 職員や患者などが病院内で感染症にかかることをいいます。
- \* ・病院の中には様々な病気の人があります。
- \* ・医療スタッフが保有している細菌やウイルスを患者に感染させてしまう可能性もあります。
- \* ・感染症のある患者のケアで適切な感染予防対策を行なわなかった場合、自分だけでなく、次に接する患者さんや、周囲の物へ、細菌やウイルスを伝播してしまう恐れがあります。
- \* ・一人だけではなく、多くの人に感染させてしまうこともあります。
- \* ・透析の患者や高齢者は免疫力が低く、感染症にかかるリスクが高い状態にあります。



**そのため感染予防対策が重要**

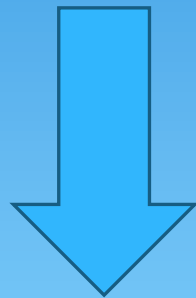
# 基本的な感染予防対策

- 排泄物(唾液、痰、鼻水、便、尿、吐物など)や血液には病原体が含まれている可能性があります。
- 感染症の有無にかかわらず、排泄物や血液を触るときには素手で触らずに**必ず手袋を使用しましょう。**
- 触れてしまった場合は必ず石鹸で手洗いをしてください。
- 医療従事者も感染源となり得ることを自覚しましょう。  
(例えば...自分の風邪を移してしまう、患者の血液が付いた手で他患者の処置にあたるなど)



## 感染症の一例として

- ・インフルエンザ、HIV、ノロウイルス、結核、梅毒、水痘、MRSA、日本脳炎、肝炎、麻疹



その中でも当院で注意すべきなのが

**B型肝炎、C型肝炎**  
**感染性胃腸炎(ノロウイルス)**  
**インフルエンザ**

# B型肝炎について

- \* B型肝炎ウイルス(HBV)が血液や体液を介して感染しておきる肝臓の病気です。
- \* HBVは感染した時期、感染したときの健康状態によって、一過性の感染に終わるものとほぼ生涯にわたり感染が継続(持続感染)するものとに大別されます。
- \* 持続感染しているHBVは身体から完全に排除することは出来ないことがわかっています。持続感染していても症状が出ない人もいますが、肝障害や肝硬変、肝がんへと移行する人もいます。

# C型肝炎について

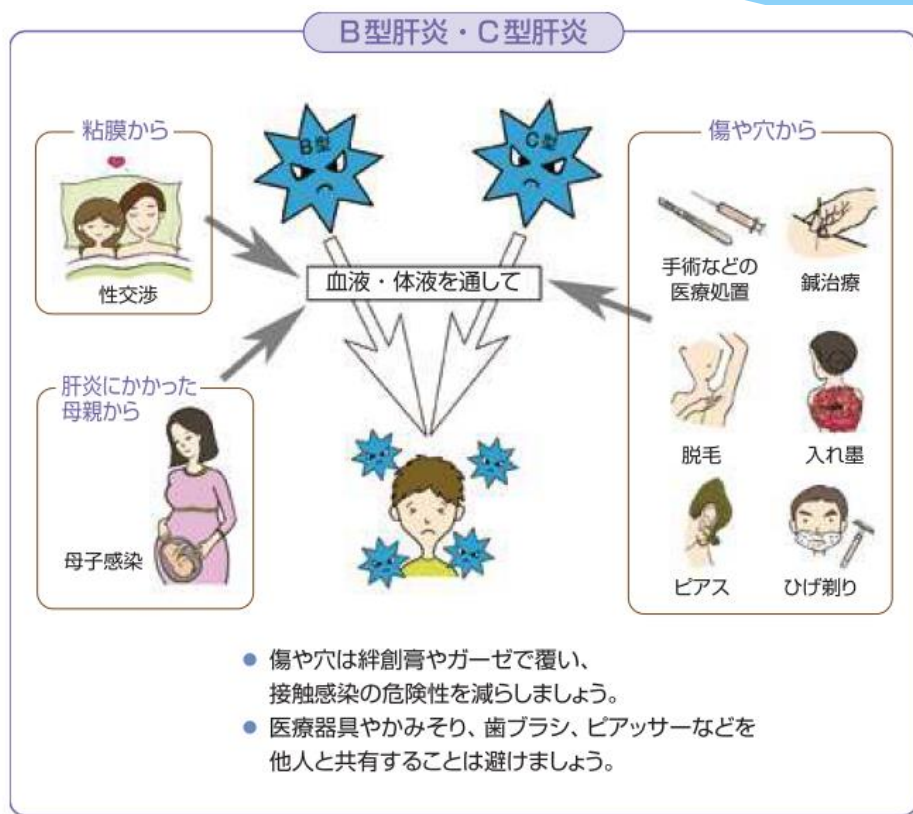
※現在当院では5名該当

- \* C型肝炎とはC型肝炎ウイルス(HCV)の感染により起こる肝臓の病気です。HCVに感染すると約70%の人が持続感染者となります。
- \* 慢性肝炎、肝硬変、肝がんと進行する場合があります。60歳を超えると肝がんになる確率が高くなります。早期発見が重要です。
- \* C型肝炎は血液を介して感染します。感染予防のためには、他人の血液に直接素手で触れない事が大切です。



# B型肝炎・C型肝炎の感染経路

当院での主な  
感染経路は...



- \* 針刺し事故  
(感染者に穿刺した針を自分や他の人に刺してしまう事故)
- \* 傷のある皮膚や粘膜  
(目や口腔内)へ血液が付着する

# B型・C型肝炎患者に対する 当院での感染予防対策

- \* B型・C型肝炎ウイルスはアルコール消毒では感染を予防できません。そのため、その患者に使用した鉗子や膿盆は次亜塩素酸ナトリウムの消毒液で消毒をしてから他患者の物と一緒に超音波洗浄をかけます。
- \* 床や機械に血液の付着があった場合には、次亜塩素酸ナトリウムでの消毒と水拭きを行います。(水拭きをしないと、金属製のものは錆びることがあるため)
- \* 傷のない皮膚に付着してしまった場合、すぐに石鹼を使用して洗浄を行う。
- \* 傷のある皮膚や粘膜(目や口腔内)に付着してしまった場合や針刺し事故を起こした場合には、ただちに流水と石鹼で洗浄し、上司に報告する。その後針刺し事故マニュアルに従って対応する。
- \* 自分の白衣に付着してしまった場合、すぐに着替えをして汚染した白衣をビニール袋に入れる。「C型肝炎+」などと感染症を明記して汚染用のリネンかごに入れる。(ベッドシーツなども同様)
- \* B型・C型肝炎の患者は固定ベッドとし、週1回のシーツ交換とする。血液汚染があった場合やC型肝炎ではない患者が使用する場合は適宜交換する。

# B型肝炎患者のみ行う 当院での感染予防対策

**B型肝炎は感染力が強いため以下の対策をする。**

- \* 全て個人用の物品とする。
- \* 患者に接する時には手袋、マスクを必ず着用する。ガウンは院長指示に従う。
- \* 詳しくはHBC抗体(+)患者に対する院内感染予防マニュアルを参照ください。

# B型肝炎・C型肝炎の違い

- \* 同じ肝炎ウイルスでも、B型肝炎ウイルスとC型肝炎ウイルスの感染力は異なります。
- \* 医療現場で、ウイルス肝炎の患者さんの血液のついた針刺し事故を起こした場合に、その医療従事者が肝炎にかかる確率は、B型肝炎の場合30%、C型肝炎であれば2~3%です。この違いは、ウイルスの感染力の差によると考えられています。
- \* B型肝炎とC型肝炎のもう一つの大きな違いは、B型肝炎にはワクチンが存在し、感染予防が可能である点です。当院でも予防接種を実施しています。

# まとめ

- **患者・自分・他スタッフを守るために  
感染予防対策は欠かせません。**
- **これは『病院で働く全ての人、一人ひとりが適切な感染予防対策をすることで感染の拡大を防ぐことが可能となる』ということを常に頭において勤務にあたることが重要です。**